

☆小学校6年間を見通した「表現のしくみ」系統表【第25期(2015年度)版】

編集：石教研国語(小)部会

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校
体験								
		対象化						典型化
構造	設定	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物「主役」 時間を表すことば 場所を表すことば 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物「主役」「対役」 時「時間の経過による場面転換」 場「場所の変化による場面転換」 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物「主役」「対役」「脇役」 時「作品の時代」「時間帯」「時間の長さ」 場「作品の舞台としての場」 	<ul style="list-style-type: none"> 伏線①「登場人物の性格、特徴」「時代、生活背景」「舞台となる場所の特徴」「話法(昔話、聞き取り)」 	<ul style="list-style-type: none"> 伏線① 伏線②「登場人物の相互関係」 	<ul style="list-style-type: none"> 伏線①② 伏線③「性別、年齢、職業」「社会背景」「作品舞台の風土」 	<ul style="list-style-type: none"> 作者、文種による設定特徴
	構成	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を通じた場面分け「お話場面の順序」 あらすじ「誰・何が、どうして、どうなった」 	<ul style="list-style-type: none"> お話の場面分け「はじめ＝時、場、人物」「なか＝事件」「おわり＝あとばなし」 登場人物の特徴 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わり、順序(話の中心) 語句レベル 文レベル 文章レベル 場面レベル 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の因果関係、順序性の根拠 場面の移り変わり(状況設定、発端、事件、結末) 場面を追ったあらすじ 主役の行動、気持ちの変化 	<ul style="list-style-type: none"> 起承転結 作品全体における「山場」 冒頭と末尾の比較(変わるもの、変わらないもの) 	<ul style="list-style-type: none"> 起承転結 作品全体の構成と構造 	<ul style="list-style-type: none"> 文種による構成特徴
	視点	<ul style="list-style-type: none"> 作品世界にひたり読む① 登場人物に同化「行動」「思い」「考え」 	<ul style="list-style-type: none"> 作品世界にひたり読む② 作者に気づく①「語り手がいることを、地の文と会話の文から意識する」 	<ul style="list-style-type: none"> 作者に気づく② だれの「思い」 だれの「考え」 視点人物「『作者』『語り手』『登場人物』の違いを意識する」 	<ul style="list-style-type: none"> 視点に気づく 視点人物の転換 作品を自分からはなして読む(客観視) 語り手の存在を意識→語り手、登場人物、作者の違いを意識する 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を探える① 一人称 三人称全知 客観 語り手と客観の重なり 	<ul style="list-style-type: none"> 視点を探える② 三人称限定 客観 	<ul style="list-style-type: none"> 視点の効果を考えて読む
技法	<ul style="list-style-type: none"> 擬人法 類似、対比「同じところ、似ているところ、ちがうところ」 キーワード「繰り返されることば」 オノマトペ(擬態語、擬声語、擬音語) 題名 反復 	<ul style="list-style-type: none"> 隠喩 直喩 キーワード「題名に通じることば」 指示語 	<ul style="list-style-type: none"> 変化する繰り返し 同じままである物事 反対になる物事 倒置 省略の記号(…) キーアイテム 	<ul style="list-style-type: none"> 情景・行動・心情描写 色彩語 副詞 カメラワーク 効果音→五感を働かせる想像活動 類比、対比される事柄に気づく 文末表現に留意して読む 	<ul style="list-style-type: none"> 行動描写 情景描写 心情描写 象徴性をもたせた物事 	<ul style="list-style-type: none"> 情景描写 心情描写 あえて描写されない事柄(読み手にゆだねる事柄) 	<ul style="list-style-type: none"> 文種による表現技法の特徴 	
特徴的な国語的発見	<ul style="list-style-type: none"> 感情語を耕す「プラスの感情」「マイナスの感情」「あいまいな感情」 ナンセンスに遊ぶ「非現実、空想世界にひたる」「滑稽」「おおげさ」 ユーモアを感じる「お話の『うそ』を楽しむ」 	<ul style="list-style-type: none"> ファンタジーを楽しむ「お話の入り口、出口」「エスカレートしていく場面展開」 主役の気持ちの変化 場面の様子、雰囲気 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となる表現さがし「なぜ、そう感じたか」 事柄の象徴性に気づく(予感・暗示させる表現) キーアイテムを何らかのモチーフに(印象) 色(情) カメラワーク(景) 	<ul style="list-style-type: none"> 事柄の因果関係に気づく なぜそうなるのか 主役の心情の変化ときっかけ 表現の仕組みと効果を意識する 類比、対比で強調する 情景、心情描写 場面の様子や心情を考える楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の変容に気づく 主題 変容 	<ul style="list-style-type: none"> 作品全体から象徴されているものをつかむ 出来事の必然 主役の変容 真理、摂理 生き方 語り手の生き方、思考を想像する 自分にとっての価値づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の批評 ①目的をもって読む場合の批評好きな作家・好きなジャンルなどに対し新たな視点をもつ ②明確な目的をもたずに読む場合の批評描かれる内容・要旨に対する評価 自己の文学的体験を認識・評価 文学的体験の交流・共有→自己の文学的体験の再評価、再構築 	
実践教材例	<ul style="list-style-type: none"> 「おおきなかぶ」(上) 「けんかした山」(上) 「りすのわすれもの」(下) 等 	<ul style="list-style-type: none"> 「きつねのおきゃくさま」(上) 「かさこじぞう」(下) 「ないたあかおに」(下) 等 	<ul style="list-style-type: none"> 「消しゴムころりん」(上) 「わすれられないおくりもの」(上) 「モチモチの木」(下) 「のらねこ」(下) 「おにたのぼうし」(下) 等 	<ul style="list-style-type: none"> 「やい、とかげ」(上) 「一つの花」(上) 「ごんぎつね」(下) 「夕鶴」(下) 	<ul style="list-style-type: none"> 「5月になれば」(上) 「大造じいさんとがん」(上) 「雪わたり」(下) 	<ul style="list-style-type: none"> 「川とノリオ」(上) 「きつねの窓」(下) 		